



2023年度 市政懇談会
＜忠生地区町内会・自治会連合会＞

次 第

[日時] 2023年10月23日(月) 18:30 ～ 20:00

[場所] 忠生市民センター ホール

司会進行： 市民協働推進担当部長 横山 法子
忠生地区町内会・自治会連合会 会長 高橋 清人

○ 連合会長の挨拶

忠生地区町内会・自治会連合会 会長 高橋 清人

○ 市長の挨拶

町田市長 石坂 丈一

○ 職員の紹介

○ 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 境川洪水・浸水対策

【下水道部】

2 小田急新駅を中心としたまちづくり計画の策定

【都市づくり部】

3 都市計画道路3・4・40号線(小山田地区)の早期整備

【道路部】

4 救急車の台数増加

【防災安全部】

5 ペットボトル容器を資源回収奨励金の対象に

【環境資源部】

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 忠生地区町内会・自治会連合会 会長代行 川畑 一隆

**2023年度 忠生地区町内会・自治会連合会 市政懇談会
議事録（要旨）**

[日 時] 2023年10月23日（月）18：30～20：00

[場 所] 忠生市民センター ホール

[出席者] 町田市長 石坂 丈一

環境資源部長 塩澤 直崇

道路部長 萩野 功一

都市づくり部長 窪田 高博

下水道部長 守田 龍夫

防災安全部防災課担当課長 佐々木 啓

市民部市民協働推進担当部長 横山 法子

忠生地区町内会・自治会連合会長 ほか37名

事務局 市民部市民協働推進課 5名

忠生市民センター長

司会進行：市民協働推進担当部長

忠生地区町内会・自治会連合会長

○連合会長の挨拶

○市長の挨拶

○職員の紹介

○市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 境川洪水・浸水対策

境川の洪水対策として、2012年に東京都は時間降雨量65mm対応を目標とすると決定しています。しかし、現状では東京都所掌区間は護岸工事などが進められていますが、下流域の制約で、未だに30mmにとどまっています。

境川全体の今後の治水工事計画が分かる時系列的な資料を提示ください。また境川全体の流下能力がいつになったら60mmになるのか、今後の見通しをお聞きします。

【回答】

下水道部長

境川の整備は、概ね30年以上かかる長期的な計画となっており、「境川水系流域治水プロジェクト」に基づいて、短期、中期、中長期にかけて段階

的に進められております。

現在、鶴間小学校付近の鶴瀬橋から下流の神奈川県管理区間に狭窄部があるため、境川全体の流下能力は、時間降雨概ね30ミリとなっております。この狭窄部の解消は、中期から中長期の取組みとなっているため、町田市域における流下能力の向上も長期にわたることになります。

今後数年の短期の計画につきましては、神奈川県により2022年3月に完成した、相原町の都営武蔵岡アパート付近にある「風間遊水地」に続き、現在、東京都が工事を進めている「境川金森調節池」及び「境川木曾東調節池」が2026年3月までに稼働する予定です。

また、馬場橋付近において約160メートル、共和橋付近において約200メートル、山根橋付近において約110メートルの護岸整備を進めております。今後も、根岸橋上流から馬場橋まで約3キロメートルの区間の護岸整備を重点的に進める予定です。

境川の整備促進のために、市といたしましては、今年の5月に神奈川県各地方管理事務所に対して、2023年度の整備状況の確認や境川の早期整備を要請いたしました。さらに、11月には、神奈川県庁の県土整備局に対し、境川の早期整備について要請する予定です。今後も、神奈川県に対し、境川の整備をより迅速に進めるよう強く要請してまいります。

《質疑》

根岸町内会

今年の5月にも同じような説明をしていただいているのですが、場所によって管理者が4つの区域に分かれるので、いろいろな要請をしているとあった。合同で会議はされているのでしょうか。

下水道部長

境川については、厚木土木事務所津久井治水センター、同じく東部センター、藤沢土木事務所と東京都の南多摩東部建設事務所が担当しています。河川整備等については、4つの事務所で情報共有しており、治水対策協議会等の会議でもきちんと河川の整備の話合いが行われています。

根岸町内会

昨年、津久井の事務所の方が来て説明を受けたが、木曾東と金森については2025年と聞いた。先ほどお話があった2026年3月とどちらが正しいのか。

あと、町田については東京都の管理であるが、私たちの根岸町内会の関係は津久井治水センターで神奈川県です。そのようなことも踏まえて、先ほどお話があった4つの事務所同士の連携が果たして取れているのか非常に不安も

ある。狭窄部を含めて30mm、津久井事務所の話だと将来的には60mmという話で、近々60mmに対応ができるようなお話も聞いています。この点についても、今日の説明と津久井治水センターの説明がかけ離れているので非常に心配しています。分かる範囲で結構ですので、お答えいただければありがたいです。

下水道部長

1つ目の木曾と金森の調節池の予定について、2025年に完了すると説明があったとのことですが、2025年度中に終わるということで、2026年3月に完了する予定となっています。このことは、私が直接東京都に確認しております。

2つ目の東京都と神奈川県各土木事務所の連携が図れているのかということについては、きちんと連携をしながら計画を立てて、各々の役割を分担して、整備等を進めています。ただ、かなり長期間にわたり、なかなか目に見える形で進んでいないのが現実です。このため、私が5月に神奈川県各事務所に出向いたときには、整備を進めるよう強く要請いたしました。改めて、連携を図って整備を促進するように強く神奈川県に要請したいと思っております。

また、今までは土木事務所に要請していましたが、11月に今度は県庁の本部に対して整備を早く進めるように要請したいと考えております。

(司会) 地区連合会長

まず、神奈川県が狭窄部をどうするのか、絵に描いたものでもないと従来から全く進まない。2か所狭窄部があり、30mmでは詰まっているのです。そこを将来的にどうするのか、時期はともかく、例えばトンネルを掘るという話も一部聞こえてはきていますが、どうやってそれを解決するのか、方法だけでも一刻も早く策定していただけないか、神奈川県にまたお願いしていただければと思います。

2 小田急新駅を中心としたまちづくり計画の策定

町田市は2016年に「小田急多摩線延伸新駅を中心とした小山田周辺まちづくり構想」を策定していますが、その後の進展がありません。

新駅の設置は忠生地区全体のまちづくりに大きな影響があります。構想段階からさらに踏み込んだ整備方針や整備計画につき、地元の住人やまちづくり協議会などと共に検討体制を整備し、早急に策定に着手してください。

【回答】

都市づくり部長

町田市内の新駅周辺のまちづくりにつきましては、「小山田周辺まちづくり構想」で示したとおり、小田急多摩線の新駅設置と連動しすすめていくこととしております。

小田急多摩線の延伸につきましては、国や東京都、沿線自治体、鉄道事業者などから成る「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」におきまして、交通政策審議会の答申で示された収支採算性等の課題解決に向けて、検討を行っております。

今後につきましては、収支採算性と関係自治体との合意形成の課題を解決するとともに、延伸事業の動向に合わせて、地域にお住まいの方や地権者の方々と調整させていただき、計画的・段階的にまちづくりを進めてまいります。

《質疑》

(司会) 地区連合会長

この延伸計画は非常に難しいプロジェクトであることも確かですが、それが実現したときに、どういうまちづくりをしたいのか絵を描いておくのも、決して将来に向けて無駄にはならないと思います。市と駅周辺のまちづくり協議会なり町内会・自治会の地元の人たちとつくっておくことを何とかお願いできないかと思いますが、その点はいかがですか。

都市づくり部長

今後の予定としては、現在、2026年度までに収支採算性等に向けての取りまとめを行う予定で検討を行っているところです。前回は2016年4月に国の交通政策審議会の答申が行われまして、その時点では地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクトということで、小田急多摩線の延伸が位置づけられております。次回の国の交通政策審議会は、今のところ、恐らく2030年頃に開催をされるのではという想定に向けまして、いろいろ検討を行っているところです。小山田周辺まちづくり構想の中では、大規模開発などハード整備中心のまちづくりではなく、まちで暮らす、まちを訪れる方の活動充実等、ソフト面に焦点を当てたまちづくりを中心に考えていきたいということで構想の中でうたっています。今後は多様なまちづくりの主体が参加しながら取組を進めていくことが非常に重要だと考えておりますので、今後、地域の方々と機会を設け、今後のまちづくりについて意見交換等を行ってまいりたいと思っております。

(司会) 地区連合会会長

ぜひ地元の方たちと知恵を出し合いながら、どういう形にしたいのか、あ

るいはどういう形の可能性があるのかという点について、また引き続きすり合わせをしていただければ、地元もある程度希望が持てるのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

余談ですが、私が一番心配するのは、唐木田のように駅はできてもバス折り返し場もない、タクシーの待機場所もない中途半端なことだと、まちづくり全体にどれだけプラスになってくるのかという点で問題がある気がします。確かに、それを利用するソフトも大切ですが、ハードである程度きちんと土台をつくり、その上でソフトを載せて、どのように地域全体で活用していくかということがないと、なかなか思うようなまちづくりができない面もありますので、その点も踏まえてよろしくお願いしますと思います。

3 都市計画道路3・4・40号線（小山田地区）の早期整備

本路線は、多摩地域の南北方面、町田中心部と日野・八王子方面をつなぐ重要な幹線道路ですが、多摩市から八王子方面が完成しているにも関わらず、接続する小山田地区の区間（下小山田苗圃から多摩市東急自動車学校脇まで）のみが未着手となっています。

この区間が開通すれば、図師大橋から日野市や八王子市中心部を南北に直線的に結ぶことができ、全線4車線化工事が進行中の南多摩尾根幹線道路とも交差することから、町田市北部丘陵地域へのアクセス向上、小山田地区さらには忠生地域の広域交通環境が大幅に改善され、ひいては将来の北部丘陵地域及び忠生地域全体のまちづくりに大きく貢献するものです。

この計画区間が東京都都市計画道路整備方針の第五次事業化計画（2026年～）の優先整備路線に位置づけられるよう、時期を逃さず町田市として東京都に要望してください。

【回答】

道路部長

図師大橋から多摩市との行政境界までの間における町田都市計画道路3・4・40号本町田小山田線は、延長約3,670mです。

その内、図師大橋交差点から桜台通りの交差点までの延長約1,690mの①区間は、既に整備が完了しており、桜台通りの交差点から下小山田苗圃までの延長約700mの②区間は、東京都が事業を進めております。

下小山田苗圃から多摩市との行政境界までの延長約1,280mの③区間については、未着手となっております。

東京都に確認したところ、事業中の②区間については、「図師Ⅲ期その1」と「その2」の2つの区間に分けて事業を進めており、その1区間の用地取得率は59%、その2区間の用地取得率は0%と伺っており、東京都に

対して早期完了を働き掛けてまいります。

今回ご要望をいただきました未着手区間についても、次期事業化計画の検討の際に、東京都に対して、都施行の優先整備路線に位置付けて頂く様に働き掛けを行ってまいります。

なお、多摩市方面へのアクセスについては、町田市において、山中集会所の手前から多摩市との行政境界までを結ぶ忠生630号の整備を進めております。

現在の予定では、2024年夏頃には整備を完了させる予定でありますので、当面の間、忠生630号線をご利用いただきたいと思います。

《質疑》

(司会) 地区連合会長

今お話の630号線ができ、ここには今、小山田桜台からマイクロバスを運行していただいています。唐木田方面にアクセスがよくなる、ひいては多摩センター方面にアクセスがよくなるということで、630号線がきちんと完成した暁には、お客がいればの話ですが、大型路線バスが物理的に開通できるのではないかと期待が非常に大きくなっています。

今回はその路線ではなくて、町田3・4・40号の未開通区間は、その手前の下小山田苗圃までの区間の用地買収に比べて、恐らくその先は人家がそんなにはないのではないかと期待が非常にあります。何とかそこをつないでいただくと、図師方面からずっと抜けてしまうすばらしい道路になる可能性があるのです。ぜひこれについて町田市としても東京都に要望を上げてほしいと思います。よろしくをお願いします。

清住平自治会

630号の話に戻って申し訳ないですが、川崎市水道局の古い建物がカーブのところにあります。新しい道路は、その後ろですでにつながっているのですが、開通はされていません。今、大妻女子大のほうから下りてくる道のところがすごいカーブになっているので細くて危険なのです。あその裏だけでも先に通していただくわけにはいかないでしょうか。そういう検討をお願いしたいのですが、よろしくをお願いします。

道路部長

最終的に舗装は一遍に行います。

清住平自治会

もっと下のカーブのすごいところです。

道路部長

大きく曲がる場所ですね。ここを先に通せないかということですね。現道から外れたところで、形はできている場所です。現道と擦りつけるにあたって高さが少し変わります。封鎖している場所は大体できているのですが、それ以外の拡張する場所は高さが大分上がってきます。川崎水道があった少し南側のところは1件まだ取得できていないところもありますが、最終的には来年の夏に開通させる予定です。その際には部分的に歩道がない状況で開通させます。まずは車が通れるような形に、夏にはしていきたいと思っております。高さがいろいろ変わりますので、先行してカーブ部分だけ開通するのは難しい状況ですが、確認します。

4 救急車の台数増加

コロナや熱中症等で救急車の需要は増加しています。忠生地区でも台数が不足している実感があります。119番になかなかつながらないとか、救急車の代わりに消防車がくるとか、八王子市から救急車がくるとかの事例があります。消防行政を所管している東京都に救急体制の強化をお願いしていただきたい。

【回答】

防災安全部防災課担当課長

東京消防庁では、国が定める「消防力の整備指針」に準拠し、人口の構成や複雑多様化する都市構造等を加味しながら、管轄する地域をひとつとして捉え、いずれの地域においても消防行政需要に等しく対応するようにしています。

一方、2022年中の町田消防署管内の救急車出場件数は、過去最高となる22,015件となり、今後も高齢化等に伴う救急車需要の更なる増大が予測されます。

このような状況に対応する方策として、町田消防署では、救急車要請の多い日中に対応するため、2023年10月17日から町田デイトム救急隊を運用開始し、平日の8時30分から17時15分まで、救急隊を1隊増やしました。

なお、市としても、熱中症による救急車要請の増加に対応するため、今年度7月から、新たに「救急車ひっ迫アラート」をSNS等により発信しています。これにより、救急車の適正利用を促しました。引き続き、救急体制の強化に協力していきます。

《質疑》

(司会) 地区連合会長

全体的な救急件数の急増に対して、町田市の救急車の数の問題はどのようにお考えでしょうか。

防災安全部防災課担当課長

救急車は市内に今まで7台ありました。それが日中のみではありますが、8台で対応するという形になりました。この1台でどれくらい変わるのかというと、年間では、東京消防庁の試算では730件から950件を1台でカバーするのではないかと予想になっています。日中だけではありますけれども、現場への到着時間の短縮とか迅速な対応ができるのではないかと見込まれております。

(司会) 地区連合会長

7台が8台になったのは何月からでしょうか。

防災安全部防災課担当課長

先週の10月17日火曜日です。

(司会) 地区連合会長

救急車は自分で走るわけではないので、それに対応した人員の配置等いろいろ大変だとは思いますが、救急車が最後の頼りでございますので、今後もそこら辺の整備、人員の体制等についてきめ細かく対応していただけるようお願いしていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

5 ペットボトル容器を資源回収奨励金の対象に

現在町内会自治会などが集めた紙資源、アルミ缶、牛乳パックなどに対して市から奨励金があり、町内会や子供会の活動資金として大変役に立っていますし、リサイクルの重要性を広く認識してもらう重要な契機となっています。

この奨励金をリサイクルが進んでいるペットボトルにまで拡大していただきたい。今後始まるプラスチックの分別収集にもはずみがつきます。

【回答】

環境資源部長

忠生地区の皆様には、地域資源回収におきまして、ごみの分別、資源化にご協力いただいていることにつきまして、お礼申し上げます。

町田市のペットボトルの回収量は、昨年度、2022年度が1,182トンで、3年前の2020年度の1,094トンと比較すると、約11%の増加傾向で推移しております。

この回収したペットボトルの資源化につきましては、再び同じペットボトルへの資源化、いわゆるボトル to (トゥー) ボトルはもちろんのこと、衣類などの化学繊維や、その他のプラスチック製品に、全ての量を資源化しております。

また、組成調査による燃やせるごみの中でのペットボトル混入の割合は、2022年度は0.26%で、3年前の2020年度は0.25%と低い割合が続いています。

全国的に見ても、ペットボトルの回収率は96.7%、資源化率は88.5%と、高い水準となっています。

最近では飲料メーカーが中心となって、ボトル to ボトルの取り組みが推進されています。2020年度のボトル to ボトル比率は15.7%のところ、2030年度までにこれを50%まで押し上げようと、業界団体全体としても高い目標を掲げています。

さらに、町田市では、公共施設へのマイボトル用の給水器の設置や、FC町田ゼルビア、ASVペスカドーラ町田のホームゲームのイベントでの「マイボトルキャンペーン」などで、ペットボトル排出の削減を進めております。

このことから、奨励金の対象をペットボトルに拡大する予定はございません。

なお、先ほどご説明した組成調査では、燃やせるごみの中に、資源化できる紙類が多く含まれている状況です。2022年度の割合としては6.92%となっております。

現在地域資源回収の対象品目である、段ボールや新聞、雑誌、牛乳パック、封筒やチラシなどの雑紙につきまして、さらなる分別回収のご協力をお願いいたします。

引き続き、ごみの分別、資源化に、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

《質疑》

清住平自治会

ペットボトルの回収、デポジットとかは考えられないのでしょうか。デポジットという言葉は違うかもしれないけれども、初めにボトルに料金を上乗せしておいて、返すと幾らかもらえるという仕組みですが、ああいうものに

すれば、返すほうも力が入るのではないかと思います。今、公園とか道路を歩いていても、今度、忠生スポーツ公園ができましたけれども、ああいうところでもペットボトルがものすごく放置されているのです。人の飲んだものを持っていくというのは気持ち悪いし、衛生的ではないというのはコロナでよく分かりましたので、飲んだものは自分で返すという仕組みをしっかりとくってほしいのではないかと思います。

環境資源部長

ご意見ありがとうございます。ペットボトルの回収は、市役所で行っている集積場の回収と事業者さんの協力をいただいてリサイクル推進店ということで、今はスーパーなどのご協力をいただいて、そちらに皆さんお出しいただいているかと思えます。ペットボトルは、事業者の方と協力して何とか回収率を上げていきたい、量を集めていきたいと考えておりました、セブン&アイ・ホールディングスさんでは、そういった制度をやっておりました、昨年度、セブン-イレブンと協定を結んでやっている自治体もあるのです。そういったところで協力させていただければ、セブン-イレブンの場合、5本入れると1ポイントつくという制度でございますので、今後広げていきたいと考えております。ご意見ありがとうございます。

清住平自治会

その場所まですら持っていかない人が結構多いです。

(司会) 地区連合会長

いずれにしても、今、例えば回収された紙類等の価格が下がってなかなか厳しい面があるということは我々も認識しています。町内会・自治会とか子ども会の活動資金になることと、そういう活動を通じてリサイクルで資源なのだという意識を子どもの頃から持ってもらうというのは、市から出している補助金が非常に大きいと思えますので、財政が非常に大変ではございましょうけれども、今後ともそういう形で継続していただければと思います。ありがとうございました。

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

今日お配りしています縦型の資料を全部やっていると1時間ぐらいかかりますので、抜粋して行いたいと思います。

「2023年度市政懇談会 市政報告概要」とタイトルをつけています。

最初のほうはずっと子どもの話ですが、病児保育の関係では、最近、川崎市と協定を結んでいまして、八王子市、相模原市とも協定しまして、お互いに病児保育施設を使えることになっております。例えば町田の中心部で稲垣耳鼻咽喉科のおおきな樹というところがあるのですが、そこから保育園に行ってもらって熱が出たお子さんを病院まで連れていってもらい、会社が終わったら迎えに来てもらうみたいなものが病児保育です。ですから、どうしても外せないタイミングでは病院から保育園に迎えに来てもらうという制度です。

2番目ですが、待機児童が30人になりました。今のところ、申込状況を見てみると、来年は10何人かになるのではないかと思います。しかし、待機児童があるのは三多摩では町田市だけです。他はもう定員割れとなっていて、待機児童がいてどうのこうのではなくて、定員がいなくて保育園の経営が難しいという状況に他の市ではなっています。今までとはさま変わりしていると思います。

次の学童保育は、6年生まで含めて今、待機児童はゼロです。これも町田市に住んでいると分からないのですが、他市は学童保育クラブの待機児童があります。新聞で最近よく出てくるのは小1の壁とって、学童保育クラブに入会できなくて仕事を辞める、あるいはパートに切り替える等、いろいろな対応をしないといけないケースが出ていて新聞で取り上げられています。他の市では確かにそういった問題がたくさんあって、今、報道されていますが、町田市では既に待機児童がありませんので、そういったケースはありません。

4番目は東京都立児童相談所、現在は八王子市に都立八王子児童相談所があって、例えば町田市の鶴間なら鶴間のお宅に八王子から来る。相談だとかネゴシエーション、親子を分離するようなどころまで行くときがあります。今は勤めから帰ってきてから相談、それから議論をして八王子にまた帰るといような状況です。今のところ、一、二年のうちに町田市に児童相談所ができる予定です。山崎にある町田市立山崎保育園の隣の土地に建物がありますので、そこに児童相談所が入居することを考えています。その後、旧忠生第四小学校、今の教育センターの再開発がありまして、その再開発ビルの中に都立町田児童相談所が入居するという予定で計画を進めております。主には虐待みたいなものが問題になっているという意味では迅速に近くに、あるいは頻繁に相談ができるような体制になるかと思っています。

1つ飛ばしまして、先月、7月に桜台に小山田子どもクラブ「ゆめいく」という児童館が新しくできております。児童館は、この次は成瀬にコミュニティセンターがあるのですが、前は小学校だったのですけれども、昔の校庭に造ることになって今設計を進めていまして、来年着工で再来年の秋までにはオープンする予定で整備をしています。余談ですが、児童館をつくってい

る全国の市役所は実はあまりないのです。児童館を新しくつくっているのは町田市ぐらいで、やめている市はたくさんありますけれども、珍しい市であります。

小学校、中学校の統合問題というのが結構あります。忠生地区は今まだ基本設計・基本計画のところに入っていませんが、今後、話し合いを進めて統合しようという計画がございます。余談ですが、この間、淡島神社近くの会館に行ったときには「境川から図師の小学校の山の上まで行くのか」と聞かれまして「いや、よろしくお願ひします」とだけお答えしましたが、私の実感としても境川の周辺から図師小学校まで行くのはちょっと遠いかなと。私が言っただけではいけないのかもしれないけれども、何か交通手段、バスを使うとか何とかしないと、うまく通えないかとは思っています。統合の計画は恐らくいろいろな問題で通学の問題が一番大きくなるのかと思います。

下の教員の負担軽減ですが、給食費が2020年度公会計化になりました。難しく言うと、未納債権は市役所のものになる。取り立ても市役所がするというのが公会計化と書いていることで、今年からは学校のいろいろな教材費も公会計化になりました。何かというと、言ってしまうと、教員が給食費の収入、支出の計算をしなくていい、あるいは教材費を集めたりといったことをしなくていい。今は全部市役所がやっているということです。もちろん、市役所のほうに職員を増やしてやっているのですが、その分、教員の教科を教える以外の負担を減らすということで、教材費までやっている市は実は日本全国でもあまりないのです。給食はやっているところが結構あるのですが、そういう意味では教員の負担軽減というのは、きめ細かい地道なところからやらないといけないということでやっております。

次は中学校の給食センターです。木曾山崎団地の中にある旧忠生第六小学校での整備に向けて、現在設計を進めております。ここにも書いてありますが、町田、忠生、小山エリアで1日4,000食、4,000人分の御飯を一遍に作るのです。これを作って各学校に配るということですが、2025年1学期ということで今進めております。南のほうは2025年の2学期で最後になります。鶴川は来年度3学期、もっと前は、堺中学は来年の2学期から、つまり、10か月後から全員給食が始まりますということで、かなり急ピッチでこの2年弱の間に全部中学校給食は整備されるということになっています。今、エレベーターがない中学校は、バリアフリー化工事により設置するエレベーターを利用して、教室階に届けます。エレベーターが設置されない学校でも、配膳スタッフが教室階まで届けます。

高校生の医療費は今年の4月から無償化になりました。

子どもの話は以上で、次が高齢者の話です。特別養護老人ホームに入れる時期、2009年度で45%、2029年の数字ですと91%、申込みから大体半年たつと入れる状況になっています。忠生地区、あるいは堺地区はか

なりたくさんの特別養護老人ホームをつくっていますので、市内に入所できるというのが町田市の特徴です。

町田市の特徴と軽く言っているのですが、例えば武蔵野市の場合は、西多摩に行くか、栃木県、群馬県のほうに行く。東京23区ではもう東京都内は無理ですので、群馬県とか栃木県とかに行かないと特養に入れたい。申し込んで半年とか1年という議論ではなくて、県外に行かないと特養に入れたいというのが実情です。

23区の場合は、日常のデイサービスも含めて介護難民というのでしょうか、介護のサービスがなかなか行き届かない状況に既になっています。これは別に批判ではなくて、介護の費用の負担というのがありますから、その費用を賄うのは税金と介護保険料ですので、それを大幅に投入しない限り、皆さんから頂いている介護保険料をうんと上げない限り人件費が上げられない。人件費が上がらない仕事で、あれぐらいの報酬では23区では人が集まらないのです。そういう意味で、なかなか介護の仕事が進まないということになっています。

町田市の場合は皆さんのご協力で介護保険料もしっかり払っていただいでやっていますので、何とか市内にというのがポイントなのです。市内に入居できるというのがポイントで、これも他の市に行くときっとびっくりすると思います。

次がちょっと飛びますけれども、さっきの630号線、さっきちらっと会長からお話がありましたとおり、現在工事を実施している区間については大型バスが通れる幅員になります。今後都市計画道路3・4・40号の整備が進み経路全体で大型バスが通れるようになった際には、場合によって神奈中さんが唐木田方面に、実際は多摩南部地域病院までバスを回してくれるかもしれませぬ。

多摩都市モノレールは、小田急多摩線も似たような状況ですが、2016年に答申があつてから、ルートは決まったものの、そこから先の整備の計画がなかなか進まないということで、毎回、都知事には私が直接要望しております。

スポーツ公園は、先ほど話題にしました熱気球の話のスポーツ公園のほか、小山の上沼の調整池のところと本町田の後田がオープンしました。西田と、ここに記載が漏れていますが、木曾東の調整池が2025年度、つまり2026年3月にできて4月に開設、ここは少年野球とかサッカーで前から使っていたところですが、一時休んでいたところですが、それが再開しますということでもあります。

それから、芹ヶ谷公園の中の（仮称）国際工芸美術館ですが、契約事務がうまくいっていません。2026年9月開館目標ですが、今のところはまさしく目標になってしまひまして、2026年、年が明けてしまうのかもしれ

れませんというくらいの状況で、来年の2月着工がちょっと危ぶまれているところです。

最後にバイオエネルギーセンターは、去年の1月に稼働していますが、温浴施設は4月に開設いたしました。先ほど言いましたように、桜台から直接歩いていけるようになりました。

その次です。資源ごみ処理施設を相原地区に造るため、用地買収を進めております。ここについては2028年度完成予定なのですが、下小山田の清掃工場の脇にあるビン・カンなどを処理している施設は2025年度で閉めます。ここに書いてある2028年度に完成する相原地区の資源ごみ処理施設と関係なくやめてしまいます。完成しなくてもやめてしまう。では、どうするのか。民間の事業者は今折衝中なのですが、民間の事業者に処理をお願いできないかということで計画しています。やめてしまうのは、前々からの約束なので、もうこれは後ろに引っ張りません。1回やめてしまいますと言ってから2025年度まで引っ張ったのです。ですから、2025年度でやめてしまいます。そこを公園に整備する事業は、その翌年度から始まる。峠谷のほうはもう少しかかりますけれども、ソフトボール場とかテニスコートの工事が始まります。そういう意味で、資源ごみ処理施設（相原地区）2028年度完成予定と書いてありますが、今あるものは2025年度にやめてしまいます。

ついでに申し上げますと、2026年度から全市域で、容器包装プラスチック分別収集を開始します。ごみ袋の色はピンクです。値段は黄色の半分です。これは今、南のほうでやっているのですが、全市域に広がります。これも処理施設が全部あるわけではないので、民間事業者に収集だとか圧縮梱包といったことをお願いするというので今進めています。

町田市は実は26市の中で資源化率が下から3番目、つまり悪いほうから3番目なのです。プラスチックやビン、カンの分別というのは必須の仕事で、それこそ全部2026年度で解決をしていこうと思っております。

《質疑》

もみじ台町内会

プラスチックごみが分別されるというのを聞いて大変喜んでおります。もう一つ喜んでいることが忠生スポーツ公園の開園です。市長がさんざんおっしゃっておりますが、小山田地区からさくら通りへ温浴施設に通うということで、それがやりやすくなったというお話がありました。ところが、犬の飼い主については、これができないのです。犬の飼い主は犬と一緒にいる場合、全面的に公園に立ち入ることができません。これについて何とかしていただけないかと思っています。

というのは、芝生の中央の部分に入りたいと言っているわけではないので

す。そこはシバヒロと同じような扱いで、お子さんが遊んだりいろいろあると思います。糞害等も考えられます。ですので、そちらにということではなくて、周辺の散策路は少なくとも通行できるような形にしていきたいということです。そうしませんと、さくら通りから尾根緑道へ抜けるとか、小山田から尾根緑道へ抜けることもできません。駐車場に犬を連れてきてしまった場合、そこから身動きができなくなってしまう。尾根緑道へ行けませんので、近隣の犬の飼い主は非常に不便をしております。至急ご改善いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(司会) 市民協働推進担当部長

今日は公園の担当者がいませんので、別途こちらからご連絡をさせていただいて、お話をさせていただくということでもよろしいでしょうか。申し訳ございません。

もみじ台町内会

公園管理課には問合せをさせていただいておりますが、通り一遍の回答で進展がございません。よろしく願いいたします。

忠生中央町内会

小中学校の統廃合計画のことです。先ほど市長さんから遠くて行けないと言われたと話がありましたが、計画を立てた人が全部行っていらっしゃるのでしょうか。本当にこの暑いところ、寒いところ、大雨も降るところで、1年生も2年生も、うちは図師小ですよ。坂の上なのです。ご存じかどうか分からない。歩道も十分ではなく上がるところが車と一緒になのです。一番交通のことが気になると言われたけれども、お母さんたちも気にしていらっしゃいます。

ちょっと違うことで、なくなる学校の跡地の売出しというか、跡地の利用方法、売出しの宣伝が出ましたね。ところが、そこで学んでいる子どもたちはどんな気持ちで授業を受けているのだろうと思いますよ。落ち着いて学ぶことができるのかしら。学校や仲間を思う心が育つのかしらと。税金でつくっている学校ですから、もうけの対象のことを、子どもが疑問に思うような形で出すというのは本当に教育上まずいと思います。今日は教育関係の方が見えていないのですけれども、それから小中というのは心のよりどころなのです。仲間を思う心が育つところですから。

それから、今、不登校になる子ども多い中で、子どもが減ってきたら本当に1人ずつに寄り添って手厚く接してあげればいいのではないですか。先生も不足しているというけれども、条件をよくすれば来るのです。学校では空き教室も無駄にはしていないのです。体験学習とか創造力とかグループ学習を

しているのです。いろいろなことで使えるのです。

それで、お金がないと言われると思うのですが、お金をどこに使うか、未来の子どもたちのためにお金を使うのがいいのではないか。スケート場を造るのもいいし、ローラースケート場を造るのもいろいろあるし、芹ヶ谷のあそこを変えるのもいいけれども、本当に未来の子どもたちのためにお金を使うということに少し考えを改めていただいたほうがいいのではないかと考えております。

(司会) 市民協働推進担当部長

貴重なご意見ありがとうございます。教育の担当者が今日はいないので、私どもから申し伝えます。

○閉会の挨拶（忠生地区町内会・自治会連合会会長代行）

議題3 投影資料1 町田都市計画道路3・4・40号の整備状況

